

今、こそ見直してみませんか。

辻川桂子(スタジオ、中野香織さん)
イラストレーション・平松昭子
衣装協力・DRESSCAMP(アト・ワンズ)
カシケイ ブラウンダイヤモンド

寄せては返すファッショニの波間に必ず現れる過去からのリバイバル・アイテム……。懐かしくも新しいおしゃれのキーワードとは?

大人のおしゃれは挑戦し続けてこそかつこいい。

中野香織さん

なかの・かおり 服飾史家 コラムニスト



東京大学文学部、教養学部卒。英国留学を経て執筆活動に。著書に『モードの方程式』『着るものがない!』(共に新潮社)など。日本経済新聞、朝日新聞でコラム連載中。

んの手仕事を感じさせる「ロエベ」のバッグ、ヒールの部分に彫刻がほどこされた「クロエ」のサンダルとか。温かみのあるものがまた戻ってきてます。

野宮 人にも地球にもやさしくといふエコロジーの流れかもしれませんね。手仕事は、子どもの頃は洋裁好きだった母のお手製の服を着て育つたので、なんとなく懐かしい感じがします。

中野 私もです。春夏は母の洋裁もの、秋冬は伯母の手編みのニットで過ごしました。母たちのお手製はただでしたけど、今は高い(笑)。フラワー・ハン

ドクラフトは'60年代、'70年代のものがまた戻ってきているのですが、リバイバルものでいえば肩パッドに注目です。これは'80年代ですね。今季の「バレンシアガ」のジャケットは肩パッドがすごいです。何と言うか、未來肩、という感じで。

野宮 どうも当時のものと微妙に違う印象がありますね……。

中野 '80年代の頃の肩パッドの流行は社会的に男性に負けずに男性と肩を並べる、平等であるというフェミニズムの運動と切り離すことができないので、ですが、ここ最近の肩パッドは、エディ

行つて華奢で細くなつた男性、それに対してバランスを取るために女性のはうがしつかりするという、女性の側の余裕のようなものが感じられます。突きぬけちゃつたというか少し冗談めているというか……。肩の力が抜けた肩パッドで明らかに'80年代の「がんばった感じ」ではありませんね。

リバイバルしている'80年代、
ポイントは肩パッド。

野宮 実は私の中では、肩パッドはもう終わりつつあって……(笑)。スタッフさんに誘われる展示会で買い物をすることが多いんですよ。シーズンの半年前に開かれるので、半年後のモードやキーワードがその時点でわかります。買い物に行く前にもインターネットや口コミで早い情報をリサーチしますから、店頭に出回る頃には飽きてしまっているということも少なくなります。買いたりするのです。ウフフ。

中野香織さん(以下、中野) この春夏のモードのキーワードというと、フラレスキャンプのフラワープリントのモードとビビッドカラー、それからアートですが。野宮さん、気になるものつてあります?

野宮真貴さん どういけど楽しい'80年代ティーストを取り入れて。

や色は、うれしいですね。今日は「ドレスキャンプ」のフラワープリントのモードを着てきました。それと、手仕事というのもありませんか?

中野 そうですね、今シーズンはアート&クラフト系が多いですね。職人さ

野宮真貴さん(以下、野宮) フラワー

野宮 どうも当時のものと微妙に違う印象がありますね……。

中野 '80年代の頃の肩パッドの流行は社会的に男性に負けずに男性と肩を並べる、平等であるというフェミニズムの運動と切り離すことができないので、ですが、ここ最近の肩パッドは、エディ

野宮 ひとつは「ポール・カ」の'80年